

新たな特許分類CPCの概要（後編）

知的財産情報検索委員会
第4小委員会*

抄録 欧州特許庁と米国特許商標庁が協力して開発した共通特許分類CPCが2013年1月に発効した。これまで二庁で使用されていた欧州特許分類（ECLA）と米国特許分類（USPC）は2013年1月以降、順次CPC（Cooperative Patent Classification）へと切り替わる。本稿前編では、CPCの基本的な疑問について解説した。後編ではCPCについての追加の情報、及び5極特許庁で進めているCHCプロジェクトのCPCと関係する部分に関して解説する。

Q 17 今後も、欧州公報や米国公報にはIPCは付与されますか？

A 17 はい、欧州特許庁（EPO）と米国特許商標庁（USPTO）はCPCとIPCの両方の分類を公報に付与していきます。

Q 18 CPCは欧州公報や米国公報上に表示されますか？

A 18 欧州公報においてはこれまでもECLAはデータベース上でのみ付与される分類であり公報上には表示されていませんでした。これからもCPCは公報上には表示されずIPCのみの表示となります。一方、米国公報においては移行期間終了時期である2014年末頃までIPC、USPC、そしてCPCがフロントページに表示されます。

Q 19 CPCは欧州公報と米国公報を全て網羅して付与されますか？

A 19 はい。原則として今後発行される欧州と米国の全ての公開公報（A）と特許公報（B）に付与されます。また、2012年の段階でECLAが付与されていた全ての発行済み公

報についても、2013年1月の段階でCPCへの置換が完了しています。ただし、米国特許公報（B）については2014年末迄の移行期間内に限って審査官の裁量で「USPCを付与」または「USPCとCPCの両方を付与」という付与方針が選択可能¹⁾なので、USPCのみが付与されCPCが付与されない可能性があります。したがって、米国特許調査の場合、少なくとも移行期間の間はUSPCとCPCとを併用する必要があるようです。

Q 20 IPCとCPCの違いはどこで確認できますか？

A 20 CPCの公式ウェブサイト²⁾で公開されているCPC-schemeで確認ください。

カギ括弧 { } で囲まれた注記が付与されたタイトルがあるグループはIPCには存在しなかったグループ、またはIPCにも存在するグループではありますがCPC固有の注記を追加したタイトルです³⁾。

* 2012年度 The Fourth Subcommittee, Intellectual Property Information Search Committee

(例)
A63B
37/00 Solid balls ; {Rigid hollow balls} ;
Marbles (heavy throwing balls
A63B65/06)
37/0003 . {Golf balls —}

Q 21 CPCと各分類とのコンコダンスはありますか？

A 21 ECLA/ICOとCPCとIPCの関係を1対1で対応づけたテーブルがCPCの公式ウェブサイト⁴⁾で公開されています。USPCとCPCとのコンコダンスはありません。なお、IPCからCPCへのコンコダンスは作成予定が無いとのことです。

Q 22 CPCは公報のどの部分の情報に対して付与されるのですか？

A 22 CPCの主要部分 (main trunk) に組み込まれるECLAをベースとする160,496個の分類は発明情報や付加情報に付与されます。ICOベースとする82,223個のインデキシング・コードは付加情報にのみに付与されます。これはIPCのインデキシング・コードと同じです。またインデキシング・コードのメイングループは全て2000番台となります。

(例)
A63B
2243/00 Specific ball sports
2243/0029 . Golf

Q 23 これまでIPCやECLAになかった新たな分野 (セクション) の追加があるのでしょうか？

A 23 数年前にICO分類としてYセクションが追加され、地球温暖化対応技術などの新技術用の分類が設定されました。今回のCPC策定に当たりY10Sが追加されています。

このサブクラスの下にUSPCから選抜した分類が配置されました。

(例)
Y10S
101/40 . Means to print on golf balls

Q 24 CPCの分類付与ルールはどうなっていますか？

A 24 IPCの一般的な付与ルールに準拠しています。詳細はCPCの公式ウェブサイトで公開されているCPC-definition (定義書)を確認ください。CPC-definitionには以下の情報が記載されています。

- Title
- Definition statement
- Relationship between large subject matter areas
- References relevant to classification
- Informative references
- Special rules of classification
- Glossary of terms
- Synonyms and keywords

Q 25 米国特許についてCPCの付与精度はEP特許のそれと同レベルと考えて良いのでしょうか？

A 25 EPOとUSPTOではCPC分類付与の品質管理に注力しており、現在米国の審査官に対する教育を行うとともに、米国特許の過去分と今後当面の発行分はEPO側でCPCを付与する予定とのことです。したがって、両国の付与精度に大きな差が出るとは考えられませんが実際のところは注視していく必要があります。知的財産情報検索委員会としましても今後検証を行う予定です。

Q 26 CPCを利用可能な特許検索データベースはどのような物がありますか？

A 26 無料で使用可能な特許検索データベースとしてはEPOとUSPTOが提供している検索ツールがあります。espacenetにおいては2012年12月には先行してECLAによる検索項目はなくなり、完全にCPCに切り替わります。またUSPTOが提供しているPatFTとAppFTにおいては2013年1月からCPCの検索が可能となります。

主要商用データベースのCPC対応状況については表1を参照ください。なお、表1の情報は2012年10月末段階で回答を得られた分のみですので最新情報については各ベンダーに確認ください。

注意すべき点は、CPCはその更新サイクルが短いため、CPC情報の収録タイムラグがデータベースによってまちまちになるであろうという点です。CPC発効後もしばらくの間はCPCと従来の分類（ECLA, USPC）の併用をお勧めします。タイムラグという点で最も早いのは両特許庁の提供するespacenet並びにPatFT/AppFTとなるものと予想されます。

Q 27 CHCという言葉をよく聞きますがCPCと何か関わりはありますか？

A 27 CHCは“Common Hybrid Classification”の略で、日本、米国、欧州、中国、及び韓国の主要5極特許庁が協力して2009年から取り組んでいるIPC細分化プロジェクトのことです。このプロジェクトは、もともと日本、欧州、米国の国内分類（FI, ECLA, USPC）を利用してIPCを細分化しようとするものでした。CPC発効後はCPCとFIをIPCに取り入れて細分化することになっています。

CPCはECLAやUSPCの代わりとなる新しい特許分類ですが、CHCはIPCの代わりとなる特許分類のことではなく、あくまでもIPCを細分化するためのプロジェクトの名称です。

Q 28 CHCは特許分類の世界調和を目的としたプロジェクトであると聞いています。CHCプロジェクトが終了した時、FIやFタームはなくなり、特許分類はIPCに一本化されるのでしょうか？

A 28 FIとFタームはもともと日本特許庁（JPO）の審査業務効率化のために作られた日本固有の特許分類です。CHCプロジェクトによって細分化されたIPCはFIとFタームほどの分類数を有しておらず、JPOによれば「FIとFタームは審査業務に必要なのでなくなる」とのことです。また、CPCもIPCと並存すると思われます。

注 記

- 1) CPC NEWS ページ5
<http://www.cooperativepatentclassification.org/publications/CpcNewsOct2012.pdf>
- 2) CPC公式ウェブサイト CPC scheme
<http://www.cooperativepatentclassification.org/deliverables/cpcSchemeAndDefinitions/table.html>
- 3) CPC NEWS ページ3
<http://www.cooperativepatentclassification.org/publications/CpcNewsOct2012.pdf>
- 4) CPC公式ウェブサイト
<http://www.cooperativepatentclassification.org/deliverables/cpcConcordances.html>
(Web参照日は全て2012年11月5日)

表1 主要商用データベースのCPC対応状況

2012年10月末時点での情報

No	DB名 (ベンダー)	Q1 CPCの収録を予定されていますか?時期は?	Q2 CPCのデータソースは何ですか?	Q3 CPCは、データベースの出力結果上で確認できますか?
1	Thomson Innovation (トムソン・ロイター)	収録予定 1次特許データ及び2次データ(DWPIデータ)の両方とも2013年1月から対応予定	独自入手	オリジナルCPCと再分類CPCのフィールドを設置。CPCデータは検索、分析とも利用可能
2	Hypat-I (発明通信社)	収録予定 EPコンテンツならびにDOCDB検索は対応予定だが次期未定 USコンテンツはUSPTOの対応状況を見て判断する予定のため現時点で対応予定無し	US/EP公報データならびにDOCDB。EPOなどからバックファイルなどの情報ができればどちらも反映	EPならびにDOCDBコンテンツについては確認可能見込み。USPTOについては新しい入力・表示エリアが必要となるので現段階では未定
3	Orbit.com (Questel)	収録予定 2012年12月から対応予定	様々なソースを統合するのでどの部分がどのソースとはいえないが、強いて言えばEPO由来データ	出力できる予定だが未だ確定情報を得ていない
4	PatentSquare (パナソニックソリューションテクノロジー)	収録予定 2013年5月頃の予定	DOCDB	書誌・抄録一覧画面、公報明細画面上で確認可能となる予定 ダウンロード項目にも搭載予定
5	TotalPatent (レクシスネクシス・ジャパン)	収録予定 2012年12月中にシステム対応 2013年1月移行順次データロード予定	DOCDB 現時点でUSPTOがCPCのデータを提供するか決定していないが、提供が決まったらソースが変わる可能性有り	表示ならびダウンロードデータの両方で確認可能
6	STN, SciFinder (化学情報協会)	収録予定 INPADOCは早ければ2012年中、Caplusは2013年の年明け早々、USPATは2013年の早い時期に対応予定 WPIと全文ファイルについては未定	DOCDBとUSPTO 他もあるかもしれないが現時点では不明	独自のフィールド(CPC)に表示される。CPCのオンラインソースも搭載予定(STN, Caplus)
7	JP-NET (日本特許データサービス)	収録予定 2012年中を目標としているがデータの内容次第で遅れる可能性有り	DOCDB	現仕様では出力結果上で確認できないが、表示することも検討中
8	NRIサイバーパテントデスク2 (NRIサイバーパテント)	収録予定 2013年1月から対応予定	DOCDB	確認可能
9	PatBase (RWSグループ)	収録予定 2012年11月19日の週に対応予定	DOCDB	確認可能
10	ATMS/PATENTAN (富士通/ジーサーチ)	収録予定 2013年7月	DOCDB	-
11	Dialog (ジーサーチ)	収録予定 2013年7月	DOCDB	-
12	ProQuest Dialog (ジーサーチ)	収録予定	-	-
13	BizCruncher (パテント・リザルト)	収録予定 データを入手次第対応。搭載時期はデータ入手の1~2ヶ月後	米国データの調達先であるレクシスネクシス社(DOCDB)	確認可能になる予定
14	Shareresearch (日立製作所)	収録予定 2013年1月からサポート予定。ただし、CPC検索を行うには、コーポレートサーバのソフトウェアのバージョンアップが必要	EPはDOCDB USはUSPTO	画面での出力、ダウンロード共サポート予定

(原稿受領日 2012年10月16日)